

令和4（2022）年度
第3回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和5（2023）年3月1日（水） 午後6時30分～午後7時30分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4－3・4－4会議室
- * 出席委員 8名 長谷川委員、前澤委員、山崎委員、遠山委員、
松谷委員、川本委員、土田委員、猪爪委員
- * 欠席委員 1名 片桐委員
- * 事務局 6名 宮崎教育部長
【学校教育課】池田課長、小山課長代理、平野副主幹、樋口主査
【商業観光課】土田主事
- * 事務局欠席 1名 【保育課】栗林課長代理

1 開会 司会：小山課長代理

2 挨拶 長谷川会長

3月に入り天候もずいぶん落ち着き、春がやってきたかなという状況である。昨年10月に皆さんからご意見をいただいたが、それから約半年近く経ち、第3回の会議では、今年度の事業報告と来年度に向けての事業計画の審議をしていただく。来年度の事業がスムーズに運営されるよう、皆さまからの積極的な御意見をよろしく願いたい。

3 議事

(1) 令和4（2022）年度 事業実施状況について

① 自然体験コース（樋口主査）

今年度は、計30園で実施。うち明照保育園は3月2日に実施予定。夢の森公園とこども自然王国に計193,100円の負担金を支出予定。実施園から提出のあった報告書を取りまとめ、次年度作成する実施報告書に掲載する。

② キャリア教育コース（土田主事）

第2回の会議での報告後、東中学校、瑞穂中学校、第二中学校で実施した。

アンケート結果では、参加した生徒に限らず、保護者サポーター、先生方からも全体的に高評価をいただいている。

③ ロボット工作コース（平野副主幹）

各学校でのクラブ活動は5校で実施。全ての活動を終了した。

2月25日に市民プラザにて3年ぶりに工作教室を開催し、13名の児童が参加した。工科大学の学生の指導のもと、子どもたちは楽しそうにロボットを完成させていた。

2月26日は交流競技会を開催し、学校のクラブ活動に参加していた2名と工作教室に参加した11名、合わせて13名の児童が参加した。

④ 科学・実験コース（樋口主査）

3月12日(日)「柏崎っ子おもしろ実験講座」の開催に向けて、準備を進めている。

チラシを市内小学校の1年生～3年生を対象に配付し、申込を開始した。今年度2回目と

なる今回は1回目より少し規模を広げ、定員60名、計6ブースが設けられる予定。

⑤ こどもの笑顔創造プロジェクト（樋口主査）

今年度は、計10団体が事業を実施。新型コロナウイルスの影響で活動内容の変更を余儀なくされる団体もあった。現在、各団体から実績報告等が提出されている。

⑥ 学校教育活動推進事業（平野副主幹）

全学校から事業報告書が届き、今年度は予定通り事業ができた、工夫しながら中止することなくできたといった事業評価も見られた。令和2（2020）年度からそれまで別会計で実施していた食育の事業をこの事業で実施するようお願いしているため、食育をテーマにした活動が多くみられるようになってきている。

—質疑・応答—

【猪爪委員】 比角小学校の学校教育活動推進事業の福祉教育推進プログラムに携わっている。学校教育活動推進事業について簡単に教えていただきたい。

【平野副主幹】 元々は各学校の総合的な学習の時間を中心とした様々な事業費に使われてきた。事業の名称が変わり、中には総合的な学習の時間でないものにも使われている。使用費目は多岐にわたるが、行事に出かけるバス代や講師の謝礼など、子どもたちが活動する事業のために使ってほしいという会計である。

【遠山委員】 いきいきゲームに昨年第二中学校の保護者サポーターとして参加した。保護者ボランティアの数が足りず、先生にも入ってもらっての実施だった。ボランティアは必ず保護者でなければならないのか。見つからない場合は地域の方でもいいのではないかな。

【土田主事】 保護者限定ではない。地域の方や先生、他学年の保護者の方も参加できる。しかし、家庭では普段見られない子どもの様子を見ていただくという意味も込めて、最優先はその学年の保護者。今年度、どうしてもサポーターが集まらず市の職員が入った学校もあった。保護者のみならず趣旨に賛同し協力いただける方には広く参加していただけるので、来年度はそのことを周知していきたい。

【川本委員】 自然体験コースについて、バスのある園は園バスを利用して参加しているが、通園バスの運行の関係で、二葉幼稚園ではこども自然王国に行くことが難しい。借り上げバスを配車してもらうことは可能か。

【樋口主査】 通園バスの通常運行に支障が出るから希望する施設に行けない、ということのないように予算状況を見ながら対応を検討していきたい。

【長谷川会長】 学校教育活動推進事業で食育を取り入れる学校が増えてきたということだったが、食育に積極的に取り組むようになったきっかけはあるのか。

【池田課長】 平成20（2008）年前後に、子どもたちの食習慣の乱れが問題となり、国が食育の充実、推進に対する大きな計画を作って、現場に強く求めてきた経緯がある。国民全体の食育に対する意識の高まりもきっかけとなっているのではないかな。

【長谷川会長】 本来家庭でやるべき食育が学校に入ってきている部分もある。学校で食育をやって、家庭で保護者を中心に実践されること、家庭との連携がより大事である。

【松谷委員】 学校教育活動推進事業について、学校間での情報交換はあるのか。

【平野副主幹】 各学校が他校の事業報告書を見ることはない。中学校区内の小中学校でどういったことを実施しているか情報交換をしたり、近隣の学校と校長間でやり取りしたり

することもあるが、機会は少ない。

【池田課長】 学校は総合的な学習の時間の様々な活動について、情報発信は積極的に行っている。学校だよりに掲載して地域の方に回覧したり、ホームページに写真を交えながら活動を紹介したりしている。各学校がそれを見ることは可能。

(2) 令和5（2023）年度 実施予定事業について （樋口主査）

・コース全体について

協議会での検討結果等を踏まえ5つの事業を実施予定。

・こどもの笑顔創造プロジェクト応募団体について

広報かしわざき、各コミセンや保育園幼稚園、小中学校へのメールで募集を周知した。

10団体中8団体は今年度から継続しての応募。新規団体は、柏崎小学校と枇杷島小学校。柏崎小学校と枇杷島小学校は創立150周年の記念事業を行うということで応募があった。現時点の補助金予算額は総額1,922,000円。

－質疑・応答－

【山崎委員】 こどもの笑顔創造プロジェクトで、事務担当は教頭先生が多い。学校の負担も大きいことからできればコミセンが主体となって学校に協力を求めていく体制ができるとよい。地域に分散できるような体制ができると活動も広がっていくと思う。

【長谷川会長】 要望ということで承る。

【前澤副会長】 補助金の上限が30万円から20万円に減ったことに対する各団体の反応はどうだったか。

【樋口主査】 コミセンなど30万円を交付していた団体からは、20万円になり残念という声があった。事業費を削って20万円の補助金でやっていく団体もあれば、補助金額に関わらず事業費は今までの規模を維持していくという団体もある。

【遠山委員】 比角コミセンは、来年度補助金額が減額になるということで、こどもの笑顔創造プロジェクト補助金は申請せず、別の補助金に応募している。

【川本委員】 基本的にはその地区の子どもしか活動に参加できないのか。地域ならではの活動がたくさんあり、他地域の子どもも参加できるとよい。

【樋口主査】 その地区の子どもでなければならないという制限があるわけではないが、基本的にはその地区の子どもが参加しているのが現状。

【遠山委員】 比角コミセンは、イベントチラシを当初比角地区の小中学生を対象に配布していたが、保育園児や学区外の子どもたちも来てもいいということになり、最終的には「比角地区の子（学区外OK）」という形でチラシを作成し配布していた。保育園、小中学校を通して配布していたため、学区外の子どもたちへの周知は難しかったが、若干ではあるものの学区外の子どもの参加もあった。これからは柏崎どこでも参加できる形にしていくのがいいと思う。

【山崎委員】 他地域の子どもたちへの参加も積極的にということになると、やはり主体はコミセンの方がスムーズにいくのではないかな。そういった体制を作れるようにぜひ検討してほしい。

【長谷川会長】 学校の統廃合によって地域に学校がなくなる、地域に子どもがいなくなる、そうし

たときにどこが主体になるのかというコミセン。コミセンであればある程度継続的な活動ができるのではないかと。

- 採決 -

【長谷川会長】 令和5(2023)年度こどもの笑顔創造プロジェクト応募10団体を補助対象としてよろしいか。

【委員】 承認 (全会一致)

4 連絡事項

(1) かしわざき子ども育成基金 収支報告 (樋口主査)

2月21日現在の寄附金と利子の積み立て合計は、715,171円。

(2) 今後のスケジュールについて (樋口主査)

現任期での会議は、本日で最終となる。本日の報酬と交通費は4月21日(金)振込予定。

【山崎委員】 4年間委員を務めさせていただいた。2000年に子ども育成基金が設立され、2007年にその活用策としてこども大学が始まり、家庭や学校では体験できない活動を通して子どもたちの生きる力を育むことを目的に様々な事業が実施されている。基金に毎年寄附いただいている北日本エンジニアリング様が今年度も表彰され大変良かった。数多くあるプロジェクトで実体験の中でしか得られない感覚を養うということは大切だと感じている。特に自然体験は五感をフルに使った感動体験ができる素晴らしい活動である。コロナも緩和されつつあるが、対策も忘れずに、体験活動がさらに活性化することを願う。そして一人でも多くの大人に関心を持ってもらい、一人でも多くの大人にそこに参加してもらいたい。子どもたちを健全な大人に育てたい、ふるさと柏崎を愛する子どもたちに育ってほしいという思いから、機会があれば活動にも参加させていただきたい。こども大学の今後について、前回明るい兆しもお聞きしたが、これからさらに発展していくことをお祈り申し上げる。

5 閉会 教育委員会 宮崎教育部長

今回の会議では令和4(2022)年度に実施した事業について報告させていただいた。今年度はウィズコロナを意識しながら、多くの方から工夫をいただいて、目的通りの事業展開がなされたものと思っている。また、令和5(2023)年度の事業について承認をいただいた。引き続き様々な社会環境のもと生き抜く力を育み、ふるさと柏崎を愛する子どもたちの育成のために活動を続けていければと思っている。

3月3日は中学校の卒業式、24日は小学校の卒業式であるが、教育委員会では卒業式においては十分な身体的距離を保てない場合を除いて卒業生、教職員、在校生に限りマスクをしないことを基本とするとしたところである。3月13日からはマスクの着用は個人の判断に委ねられ、ゴールデンウィーク明けからは感染症の分類が第5類に移行するということだが、すべての生活が従前のようにならないであろうから、その時にふさわしい生活のスタイルが求められることになるのだと思っている。子どもたちも適切な学校生活を送れるようにしていきたい。

最後に、委員の皆様の任期について3月末までということで、これまで大変お世話になり、感謝申し上げます。これからも子どもたちが健全に成長していけるよう、こども大学の事業も適正に運営

を続けていけるよう、引き続き皆様からの御意見、御提案を賜ればありがたい。

以上。